

開催地名	茨城県神栖市
開催日時	令和5年10月15日(日) 10:00～11:30
開催場所	波崎総合支所・防災センター
語り部	柳迫 長三 (広島県広島市)
参加者	神栖市防災士協議会、神栖市防災安全課職員 27名
開催経緯	<p>当市では、防災士協議会を設立し、地域の防災力向上を目指しているが、市内における自主防災組織の結成率は低く、結成している組織においても活動が低迷している状況にある。語り部による講演会を実施することにより、「共助」の重要性を改めて認識していただき、自主防災組織の活性化を図りたい。</p>
内容	<p>防災士の活動について重点的に話すこととする。</p> <p>(1) 広島で発生した自然災害について</p> <p>広島は山が多く、山の上や山を切り開いて宅地、山の麓に住宅が密集しているという地域特性がある。地質的にも大量に雨が降ると土砂崩れが起きやすくなっているため、多くの人が度々災害により亡くなっている状況が起きている。最近では20年に3回も大きな災害が起きており、その度に犠牲者が多くなっている。</p> <p>その為に知り合いを集めて防災士ネットワークを作ったが、その当時は何から始めたらいかがが判らない状況であった。</p> <p>ちなみに神栖市は太平洋・利根川など水害に対して注意をする必要のある地域である。山がなく平地なので津波が来てしまったら全て水に浸かってしまうことは容易に想像できる。人は目の前に水や土砂が迫ってから避難する傾向があるが、土石流は目の前に土砂が迫ってからでは既に手遅れである。また、避難所ではなく尾根筋に逃げるのが重要。</p> <p>定期的な大型豪雨により、土砂災害や豪雨災害で有名になってしまった程である。崖崩れと違って、土砂崩れは周辺住宅を丸々飲み込んで押し流してしまい、救助に向かっても殆どの方が亡くなった状態で見つかってしまう。生きていうちに助けるために、とにかく家に人を残さずに平地に移動させることが重要になる。</p> <p>土砂災害の多い地区に関しては、「家にいたらリスクが高い(死んでしまう)」ということを知らせなければいけない。崖崩れから命を守る為に、目安としては1時間に40mmの雨が降ったら避難することが重要。</p> <p>(2) 防災の課題と対応策について</p> <p>いざというときに地域で一体となって連携をするために、地域の自主防災組織をしっかりと機能させる必要がある。当番だから仕方なくという意識の低い人や高齢者だけの集まりにせず、若い人を参加させるために小学校の子供会やPTAを活用し、防災会の会員の立候補者を募ることや、地域の回覧板で防災ボランティアを募集したりし、やる気のある若い人を少人数からでも集めることがとても大切である。</p>

避難所の運営も自治体に依頼するのではなく、自分たちで行なうことで一体感も生まれて非常に効果が出ている。小学校への防災活動も行なっている。

要介護の支援者への取り組みも国から指示が来ていると思うが、果たして皆さんはできているのだろうか？国からのリストに頼らずに自主的にアンケートを取って進めることで早く対応することができる。

(3) 地域ぐるみの防災

防災は地域住民が主体となって活動していくことが重要であるため、顔が見える関係性作りを意識することが大切だ。わがまち防災マップやタイムラインの作成のほかに、要支援者避難支援のシートを各世帯に配布し、個人情報にも留意しながら個別計画をたてている。

安全な避難経路を見つける「わがまち防災マップ作り」では土石流から逃れる経路を示した。また、どこに誰と何を持って避難するかを考える「マイタイムライン」を活用して、楽しみながら意識づけを行なっている。また、孤立しない為の人づくりとして、「無事タオル」を作成して配布した。

大人だけで防災活動をするのではなく世代を超えた防災教育を意識づけている。小学生の総合授業や中学生の課外授業などで防災の意識づけをすることで、子供から家庭へ防災意識を起こすことを狙いとしている。鯉こいキャラバンやキッズ防災士の育成に力を入れ、防災コンクールや防災甲子園などで表彰をすることで、自分の頭で考え主体性をもち、将来を見据えて地域に貢献できる人を育む活動を行っている。子供たちの活動を継続する為にも保護者を味方につけることも重要である。

(4) まとめ

地域住民の命を自分たちで守るために、共助・近助の考えで地域の防災教育を考えるのも、自治体に頼るのではなく、全て自分たちで考えて協力してくれる仲間を増やし、実行することが重要である。



開催地より

甚大な災害を経験した地域の自主防災組織が、災害時に生じた問題や活動を行う上での課題に対し、どのように取り組んできたのか具体的な事例をあげて講演いただき、「共助」の重要性を再認識するとともに、地域防災に対する意識の向上へとつながる場となった。

本講演を参考に、防災士協議会活動の充実と自主防災組織の活性化をすすめていきたい。